

ボーイスカウト福島連盟 県北地区協議会
第22回 ビーバー・カブリンピック 実施報告書



県北地区 C Sプログラム委員長 大 関 宏 之
BVSプログラム委員長 伊 勢 洋一郎

1 日時

平成30年4月30日 月曜日（振替休日） 午前10時00分から午後0時20分

2 場所

街なか広場 （所在地：福島市本町1）

3 参加隊

福島第1団、福島第3団、福島第4団、福島第5団、桑折第1団、二本松第1団

4 参加者数

	BVS	CS	指導者	支援スカウト (BS,VS等)	合計
福島第1団	6	10	6	3	25
福島第3団	3	5	5	1	14
福島第4団	1	0	2	0	3
福島第5団	0	1	3	0	4
桑折第1団	5	13	5	4	27
二本松第1団	0	2	3	0	5
合計	15	31	24	8	78

※上記スカウトの他、体験者約15組程度が参加

5 テーマと活動概要

(1) テーマ 「ぼくらはみらいのオリンピック」

(2) 活動概要

オリンピック競技内容にボーイスカウトスキルを盛り込んだゲーム

6 目的

地区内のカブ・ビバースカウトが集まることにより、仲間意識を醸成する。

また、スカウト同志が協力し活動することにより、カブスカウトのモットー「いつも元気」とビバースカウトのモットー「なかよし」を実践させる。

併せて、スカウトの活動の様子を会場周辺の方々に見てもらうことで、ボーイスカウト取組を発信する機会とする。



7 活動内容

(1) 各プログラム概要（詳細は別紙計画書のとおり）

- ①新しい仲間（出場国）はどの国だ？
→国旗パズルによるキムスゲーム
- ②オリンピック会場を作っちゃおう！
→巨大ブロック積み
- ③君はバイアスロンの名選手！
→吹き矢による的あて
- ④ぼくもわたしもオリンピック選手
→重さ当てとロープ結び
- ⑤パシュートで金メダルだ！→リレー競争
- ⑥カーリングプレーヤーズ選手権
→ボールを使った模擬カーリング

(2) グループ

ビーバー・カブ別に、体験参加者も含めて年代が偏らないよう5～6人グループを編成。ビーバースカウト5グループ、カブスカウトは7グループ編成となる。

(3) 表彰

競技結果を点数化し、ビーバー・カブ別に上位3グループまでを表彰。オリンピックメダルに模して金・銀・銅のミニホルダーを贈る。

(4) そのほか

- ①ボーイスカウト活動の広報を行うため、広報ブースを設置しボーイスカウト映像鑑賞や制服の試着などを行う。
- ②会場周辺の通行者に対し、ベンチャースカウトが当イベントの周知と参加の声かけを行う。
- ③救護スペースを設けると共に、技能賞取得のためベンチャースカウトが救護を担当。
- ④参加スカウトや体験参加者の記念となるよう、参加賞として缶バッジを作成し参加者全員へ配付。



↑オリンピックメダルをイメージした賞品
ミニホルダーと共に紐につけ首飾りに



↑参加賞の缶バッジ

8 指導者からの意見（反省点・改善案など）

※各指導者からの意見をそのまま掲載しているため内容が重複する部分がある

（1）反省点と改善点

【保護者への説明】

- 班分け後の班について担当保護者さんへのコーナーへの進み方説明が不十分であったように思われる（どのように回ればよいか解からない方がいた）
- 会場の配置図を班担当保護者の方に配布されればスムーズに流れたのではないかと思われる。
- グループの誘導について、当日突然依頼するのは保護者にとって唐突感を感じさせた。

→事前にビーバーカプリニックの進め方とグループ誘導のお願いをすること（可能性も含め）を保護者へ予め伝えておく。

【会場レイアウト関連】

- コーナーの看板があれば良かったと反省（コーナー運営者の準備不足）
- プログラムには参加していなかったのですが、各コーナー毎の詳細は分からなかったのですが、チームについてくれた保護者の方から、これは何処でやってますか？との質問を何回か受けました。コーナー毎に立看板か、コーナーの場所が書いてある紙があると良かったと思いました。
- 広場内でのプログラム場所が分かりづらかった。
→プログラム配置図を渡す。また、プログラム毎に看板を掲示する。どこで何ができるのか、何をやっているのかを明確にわかりやすく

【プログラム内容】

- パイアスロンはビーバーとカプスカウトの吹く位置を変えたがビーバースカウトチームが0点のところがあり、もう少し的と吹くところの位置を近くにするとよかったと反省。ペットボトルの的はあるもの（以前に別の大会で使用）を使用したが高水の量が多く倒れない物が多かった。次回、行うのであれば水の量を減ら等、工夫の余地あり。





- ブロック積みプログラムについて、カブスカウトに対する内容が難しすぎた。そのため、時間がかかり過ぎ、全体の終了時間にも遅れが生じた。
→組み立て内容の簡素化と計測手順の省略
- 担当したパシュートは紐が短めだったり細かい修正があったものの割りとスムーズに出来ていました。重さのスキルはルールの説明が足りなかったためか、よくわかっていないスカウトがいたように思います。
- パシュートに関しまして、ロープが細かった(食い込む)、ロープが短いと思い2本つなげてみたのですが、前と後ろのがキツイようです。次回行うようならば、片手でロープを持ち、もう片手は前の人のかかとつかまる。
- スキルマケケット(重さ)については、200・300gでは解りにくい、(正解グループが少ない CS 1 BVS 2グループ)重さの差を明確にしてみる。

【運営面】

- スカウティングらしさを保護者にも感じてもらえるようにと、カブコールやなかよしの輪などいつもの隊集会のようにさりげなく行いましたが、戸惑っているスカウトもいたようです。ルーティンになってない隊もあるのかと感じました。
- 組わけの待ち時間に全員でスカウトソングを歌いました。活動の中で歌が自然にが出てくるようにとの思いからでした。
- 成績優秀グループの表彰をもう少し盛り上げる
→バックミュージックを入れる。順位毎に分けて表彰するなど。
- ビーバースカウトにとって、歌集無しで連盟歌を歌わせるのは難しい。また、「みんなで大きな輪を作ろう」も同じ。
→歌集を持たせて見ながら歌ってもらう。



【広報面】

- 今回の街中での開催の一番の目的であったスカウトの姿を街中で目にする事は、目標を達成したと思います。ドームテントやスタードームなどの展示があればよりスカウトらしい雰囲気を出せたかなと思いました。

- 広報ブースが上手く活用できなかった。
→体験参加家庭へのアピール不足。広報・宣伝担当をつけても良かったと思われる。
- 通行しているひとが、「ボーイスカウトは、こんなこと
もしているんだ」と話していました。車のなかからみて
いるひとはけっこう多かったみたいです。



(2) 評価できる点、良かった点

- 保護者が積極的に声掛けをしてくれて多くの一般参加者が来てくれました。柿沼副コミの入隊を促すお話もよかったと思います。
- 福島第2団さんが第1回のビーバーカブリンピック時の表彰状を持参し、紹介して下さったこと。
- 表彰時にカブ隊の祝声をしました。これもスカウトらしい姿でしたがよかったかなと思いました。



9 活動経費

残金 ¥909

収入	¥15,000 地区補助金	支出	¥2,141 プリンターインク ¥5,250 ミニホルダー(景品) ¥108 養生テープ ¥108 クリアポケット ¥324 リボンセット(賞品メダル首掛け紐) ¥540 ラベル用紙×5 ¥108 ラベル用紙 ¥432 リボンセット(賞品メダル首掛け紐) ¥1,080 腕章 ¥4,000 テント使用料(@500×8張り)
合計	¥15,000	合計	¥14,091

10 事前打ち合わせ(参加者敬称略)

第1回打ち合わせ

とき：3月18日 午後6時から7時30分

ところ：青少年会館

参加者：福1：大関・伊勢 福3：丹治

福4：尾形(好)・高橋 桑折1：柿沼(由)



第2回打ち合わせ

とき：4月7日 午後6時から8時

ところ：青少年会館

参加者：福1：大関・伊勢 福3：丹治・菊地
福4：尾形（好）・高橋 福5：一本
桑折1：柿沼（由）、二本松1：佐々木



11 総括

指導者や参加保護者様の協力の下、事故や怪我が無く無事終わることができたことが何よりと感じた。

当イベントを通じ、カブ・ビーバースカウトのモットーである「いつも元気」と「なかよし」が実践できたことに加え、引率した指導者や参加された保護者からスカウト達が楽しんで参加できた様子を聞くことができた。

また、年長スカウトが積極的にプログラム運営や広報に協力することで、スカウトの成長した姿として保護者等の目に映ったものと感じている。

更には、会場周辺の通行者に向けて元気よく楽しそうに活動するスカウト達の姿を発信することができたことにより、スカウト活動の広報にも一定の成果があったものと捉えている。

参加いただいた指導者からは建設的な反省点、改善点を多々頂戴した。これらを踏まえ次回の地区イベントへと活かしていくことより、地区内のボーイスカウト活動の更なる活性化を目指すと共に、加盟員数の増加へつなげていきたい。



↑5/1 福島民友 県北欄に掲載された記事

